

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年12月16日(2010.12.16)

【公表番号】特表2009-514906(P2009-514906A)

【公表日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【年通号数】公開・登録公報2009-014

【出願番号】特願2008-539289(P2008-539289)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/64 (2006.01)

C 0 7 K 5/107 (2006.01)

A 6 1 K 8/365 (2006.01)

A 6 1 K 8/67 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 6 1 Q 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/64 Z N A

C 0 7 K 5/107

A 6 1 K 8/365

A 6 1 K 8/67

A 6 1 Q 19/00

A 6 1 Q 17/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月23日(2009.10.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

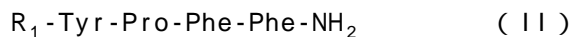
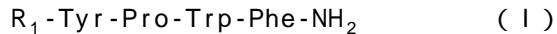
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(I)および/または式(II)：



[式中、 R_1 は、Tyrのアミノ末端部の NH_2 基と結合しており、

a) -H、

b) -OH、-SH、-COOHまたは-CONH₂基によって官能化され得る、1~24個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

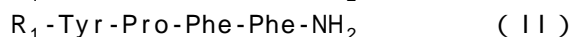
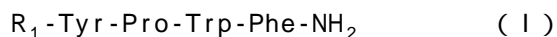
c) 二官能性リンカーを介してTyrのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチドの化粧的使用。

【請求項2】

敏感肌を処置する組成物の製造のための、式(I)および/または式(II)：



[式中、 R_1 は、Tyrのアミノ末端部の NH_2 基と結合しており、

a) -H、

b) -OH、-SH、-COOHまたは-CONH₂基によって官能化され得る、1～24個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

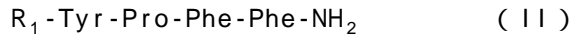
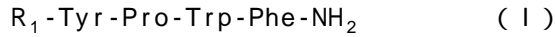
c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチドの使用。

【請求項3】

少なくとも1種の式(I)および/または式(II)：



[式中、R₁は、Ty rのアミノ末端部のNH₂基と結合しており、

a) -H、

b) -OH、-SH、-COOHまたは-CONH₂基によって官能化され得る、1～24個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチド、および

少なくとも1種の、 -ヒドロキシ酸、 -ヒドロキシ酸およびレチノイドからなる群から選択される化粧用剤

を含んでなる化粧用組成物。

【請求項4】

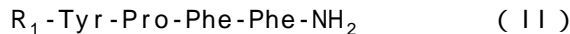
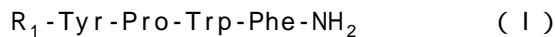
R₁が、H、または1～12個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基である、請求項1～3のいずれかに記載の使用または組成物。

【請求項5】

オリゴペプチドを、0.001～1000 ppmの濃度で使用することを特徴とする、請求項1～4のいずれかに記載の使用または組成物。

【請求項6】

式(I)および/または式(II)：



[式中、R₁は、Ty rのアミノ末端部のNH₂基と結合しており、

b) -OH、-SH、-COOHまたは-CONH₂基によって官能化され得る、1～24個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合する、ステロールまたはスフィンゴ脂質基

である。]

で示されるオリゴペプチド。

【請求項7】

R₁が、1～12個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基である、請求項6に記載のオリゴペプチド。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

両性界面活性剤も、適当な乳化剤である。用語「両性界面活性剤」は、分子中に、 $C_{8/18}$ アルキルまたはアシル基に加えて、少なくとも1個の遊離アミノ基および少なくとも1個の $-COOH$ または $-SO_3H$ 基を有する界面活性化合物を意味し、分子内塩を形成し得る。適当な両性界面活性剤の例は、アルキル基中に約8～18個の炭素原子を各々の場合に有する、 N -アルキルグリシン、 N -アルキルアミノプロピオン酸、 N -アルキルアミノ酪酸、 N -アルキルイミノジプロピオン酸、 N -ヒドロキシエチル- N -アルキルアミドプロピルグリシン、 N -アルキルタウリン、 N -アルキルサルコシン、2-アルキルアミノプロピオン酸およびアルキルアミノ酢酸である。特に好ましい両性界面活性剤は、 N -ココアルキルアミノプロピオネート、ココアシルアミノエチルアミノプロピオネート、および $C_{12/18}$ アシルサルコシンである。最後に、カチオン性界面活性剤も乳化剤として適しており、エステルクォート(esterquat)タイプのもの(好ましくはメチル第4級化ジ脂肪酸トリエタノールアミンエステル塩)が特に好ましい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0089

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0089】

・抗菌剤

基本的に、適当な抗菌剤は、グラム陽性菌に対して作用する全ての物質、例えば4-ヒドロキシ安息香酸並びにその塩およびエステル、 N -(4-クロロフェニル)- N' -(3,4-ジクロロフェニル)-尿素、2,4,4'-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル(トリクロサン)、4-クロロ-3,5-ジメチルフェノール、2,2'-メチレン-ビス-(6-プロモ-4-クロロフェノール)、3-メチル-4-(1-メチルエチル)-フェノール、2-ベンジル-4-クロロフェノール、3-(4-クロロフェノキシ)-1,2-プロパンジオール、3-ヨード-2-プロピニルブチルカルバメート、クロロヘキシジン、3,4,4'-トリクロロカルバニリド(TTC)、抗菌性香料、チモール、タイム油、オイゲノール、丁子油、メントール、ミント油、ファルネソール、フェノキシエタノール、グリセロールモノカプレート、グリセロールモノカプリレート、グリセロールモノラウレート(GML)、ジグリセロールモノカプレート(DMC)、サリチル酸- N -アルキルアミド、例えば N -オクチルサリチルアミドまたは N -デシルサリチルアミドである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0118

【補正方法】変更

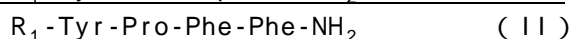
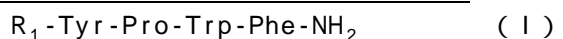
【補正の内容】

【0118】

2%活性成分含有エマルジョンを塗布してから120分後、プラセボゾーンと比較して、「不快」および「痛い」のレベルに対する熱の知覚は著しく減少した。これらの結果は、実施例4の活性成分を2%含むエマルジョンを塗布してから120分後の鎮静効果を示している。

本明細書の当初の開示は、少なくとも下記の態様を包含する。

[1]式(I)および/または式(II)：



[式中、 R_1 は、Tyrのアミノ末端部の NH_2 基と結合しており、

a) -H、

b) -OH、-SH、-COOHまたは-CONH₂基によって官能化され得る、1～24個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、ま

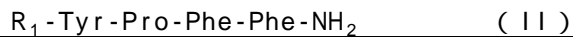
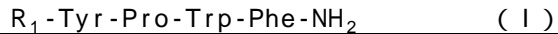
たは

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチドの化粧的使用。

[2] 敏感肌を処置する組成物の製造のための、式 (I) および / または式 (II) :



[式中、R₁ は、Ty rのアミノ末端部のNH₂基と結合しており、

a) - H、

b) - OH、- SH、- COOHまたは- CONH₂基によって官能化され得る、1 ~ 2 4個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

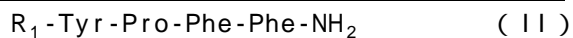
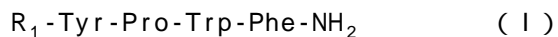
たは

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチドの使用。

[3] 少なくとも1種の式 (I) および / または式 (II) :



[式中、R₁ は、Ty rのアミノ末端部のNH₂基と結合しており、

a) - H、

b) - OH、- SH、- COOHまたは- CONH₂基によって官能化され得る、1 ~ 2 4個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

たは

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合するステロールまたはスフィンゴ脂質基

からなる群から選択される。]

で示されるオリゴペプチド、および

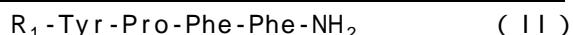
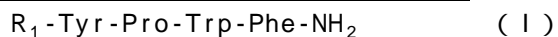
少なくとも1種の、- ヒドロキシ酸、- ヒドロキシ酸およびレチノイドからなる群から選択される化粧用剤

を含んでなる化粧用組成物。

[4] R₁が、H、または1 ~ 12個の炭素原子、好ましくは1 ~ 6個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、最も好ましくはアセチル基である、前記 [1] ~ [3] のいずれかに記載の使用または組成物。

[5] オリゴペプチドを、0 . 001 ~ 1000 ppm、好ましくは0 . 05 ~ 500 ppm、最も好ましくは0 . 1 ~ 100 ppmの濃度で使用することを特徴とする、前記 [1] ~ [4] のいずれかに記載の使用または組成物。

[6] 式 (I) および / または式 (II) :



[式中、R₁ は、Ty rのアミノ末端部のNH₂基と結合しており、

b) - OH、- SH、- COOHまたは- CONH₂基によって官能化され得る、1 ~ 2 4個の炭素原子を有する直鎖飽和または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、または

たは

c) 二官能性リンカーを介してTy rのアミノ末端部と結合する、ステロールまたはスフィンゴ脂質基

である。]

で示されるオリゴペプチド。

[7] R₁が、1 ~ 12個の炭素原子、好ましくは1 ~ 6個の炭素原子を有する直鎖飽和

または不飽和或いは分枝飽和または不飽和アシル基、最も好ましくはアセチル基である、前記 [6] に記載のオリゴペプチド。